

JCI「混和材料から見た収縮ひび割れ低減と耐久性に関する研究委員会」WG4

第4回委員会 議事録

日時 2009年9月24日(木) 10:00～13:00

場所 (社)日本コンクリート工学協会 12階 第5会議室  
〒102-0083 東京都千代田区麹町1-7相互半蔵門ビル12階

出席者(順不同・敬称略)

委員長	名和 豊春	北海道大学大学院 工学研究科
主査	石川 嘉崇	電源開発(株) 茅ヶ崎研究所
委員	檀 康弘	新日鐵高炉セメント(株) 技術開発センター(パート出席)
	福留 和人	(株)間組 技術研究所
	船本 憲治	九州電力(株) 土木部原子力グループ
	二戸 信和	(株)デイ・シイ 技術情報室
	小田部雄一	住友大阪セメント(株) セメント・コンクリート研究所
	中山 英明	(株)宇部三菱セメント研究所 埼玉センター
事務局	福林 幸雄	

配布資料

No.4-1	第3回WG4議事録
No.4-2 1	試験分類表(石川主査)
No.4-2 -2	試験分類表(中山委員)
No.4-3	FAコンクリートの収縮に関する文献整理表(船本委員)
No.4-4	FAコンクリートの収縮に関する文献整理表(福留委員)
No.4-5	FA文献データ(船本委員)
No.4-6	建築用フライアッシュコンクリートに関する仕様書および指針(船本委員)
No.4-7	シリカヒューム文献整理データ(中山委員)

議事

1 前回議事録の確認

資料No.4-1に基づき、本WGの活動方針について審議した結果、次の意見が出された。

- ・ WG4は、既往文献の調査を実施する。ただし、例えば初期養生などWG3に関連した文献の調査は、該当するWG3に依頼することを検討する。
- ・ 本WGは、文献調査で得た各種データを活用し、たんなる文献調査でなく混和材料を用いたコンクリートの耐久性を定量的に評価できる資料を作成することを目標とする。

2 既往文献の調査方法

資料No.4-1に基づき、文献調査方法について再確認した。

- ・ 混和材料は高炉スラグ微粉末、フライアッシュおよび石灰石微粉末を対象とする、また混合セメントの場合、三成分系セメントはコンクリートの物性に及ぼす混和材料の評価が難しいので、主として二成分系セメントを対象とする。当WGでは高炉スラグ微粉末、フライアッシュをメインとする。
- ・ 対象とする論文出所は、国内は建築学会、土木学会、JCIおよびセメント協会発刊の論文集とする。また、既に他の学会で同様の文献調査等を実施しているケース(土木学会)があるため、原則としてこれを利用する。
- ・ 混和材料の規格・指針に関する資料のうち、フライアッシュは「フライアッシュを使用するコンクリートの調合設計・施工指針・同解説」を、高炉スラグ微粉末は、鉄鉱スラグ協会が取り纏めた資料があるのでこれを利用する。また、JCI 四国支部が行った文献調査を使うこととする。

- ・文献を検索する際のキーワードは、中性化、遮塩性および収縮ひび割れとメインとするが時間の関係で収縮ひび割れ、中性化でとりまとめることにした。
- ・収集した文献は、適宜 WG の各委員に配布して作業を進めるものとする。
- ・最終的な、成果報告書添付の CD-ROM 化 または DVD 化は委員会の動向で調整する。

### 3 その他

- ・ 船本委員から提供された FA コンの収縮に関するデータのとりまとめのように、デジタルデータに落とすまえに全体の傾向について把握することとする。
- ・ また、フライアッシュの指針等(資料 No.4-6)に関して、高炉スラグ関連も同様な調査をおねがいしたい。
- ・ また、中性化については、実構造物等のデータを収集して検討することとしたい。
- ・ シリカフェームについては、収縮メインに、また多成分系については、要旨等を整理しているその延長で全体の傾向について整理することとなった。

(文責 石川)  
以上